

# イーストスプリング インド投資マンスリー

2023年11月号

インド投資マンスリー  
動画配信中！



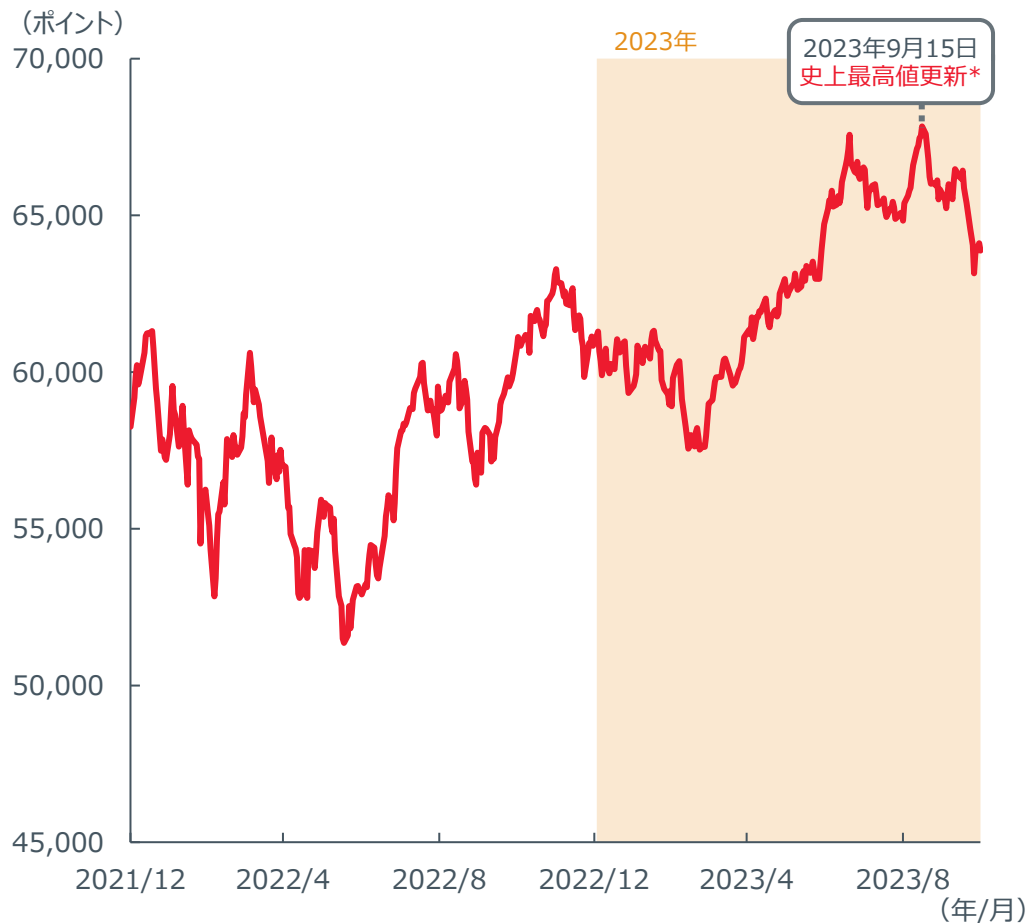
## イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第379号  
加入協会 一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。  
最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社である  
ブルーデンシャル・アシユアランス社とは関係がありません。

# 株式：中東情勢の緊迫化などを背景に下落

## SENSEX指数の推移 (2021年12月末～2023年10月末、日次)



## 2023年10月の振り返り

インド株式 (SENSEX指数) は、月間で3.0%の下落となりました。中東情勢の緊迫化に伴う原油価格上昇懸念や米長期金利の上昇を受けた米国株の調整などを背景に海外投資家の資金流出が続いたことが要因です。

中型株指数、小型株指数もそれぞれ、3.4%、1.7%下落しました。S&P BSEの主要セクター指数では、不動産以外の全てのセクターが下落しました。

売買動向では、海外機関投資家が売り越した一方、国内機関投資家は買い越しました。

MSCIインドは米ドルベースで-3.0%となり、MSCIエマージングの-3.9%を上回りました。

## 規模別指数の期間別騰落率 (2023年10月末時点)

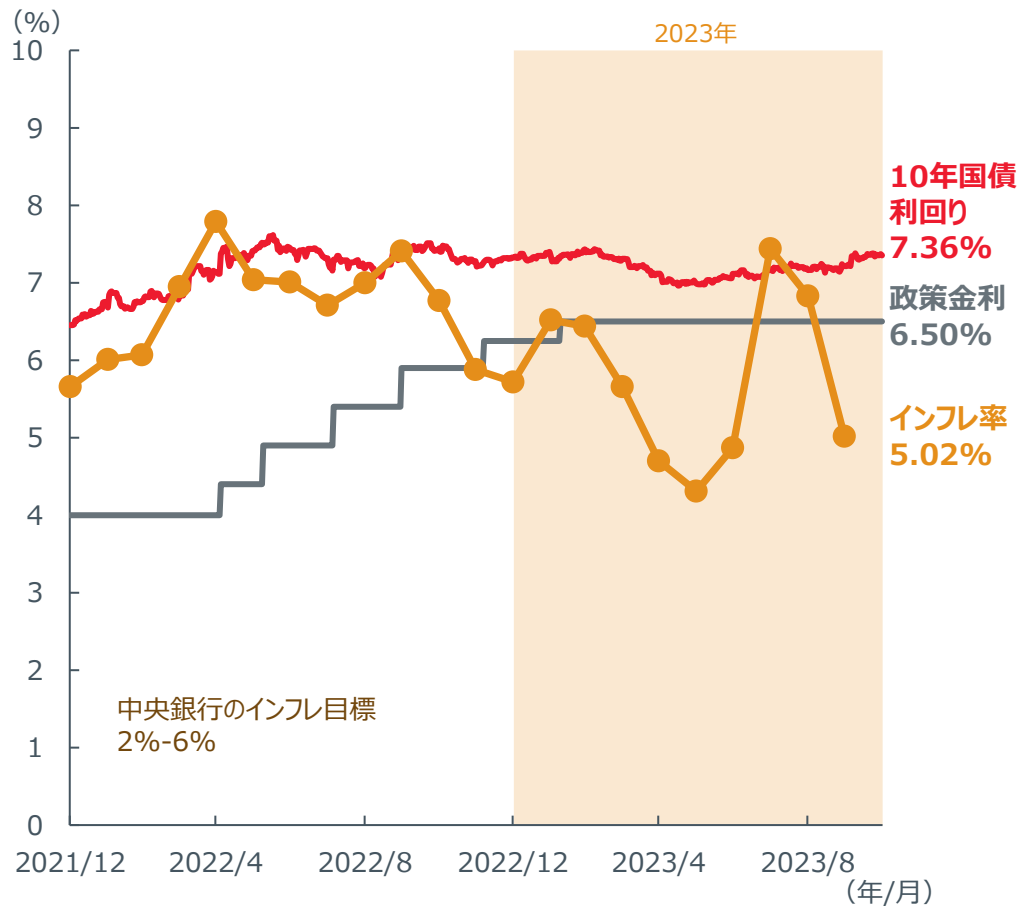
	1か月間	3か月間	6か月間
大型株 (SENSEX指数)	-3.0%	-4.0%	4.5%
中型株 (BSE中型株指数)	-3.4%	2.7%	22.6%
小型株 (BSE小型株指数)	-1.7%	5.5%	27.7%

出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。  
※全てプライス・リターン、インドルピーベース。\*終値ベース。

# 債券：インフレ率は低下、10年国債利回りは上昇

## 政策金利\*、インフレ率\*\*、10年国債利回りの推移

(2021年12月末～2023年10月末、日次)



## 2023年10月の振り返り

10年国債利回りは上昇（価格は下落）し、7.36%で月を終えました。

米連邦準備制度理事会（FRB）が高金利を長期化させるとの観測や9月の米雇用統計の好調を受けた米国債利回りの上昇に追随する形で上昇しました。

インド準備銀行（RBI、中央銀行）は金融政策決定会合を5日に開催し、全会一致で政策金利を6.50%に据え置きました。4会合連続での据え置きとなりました。

12日発表の9月のインフレ率は前年同月比+5.02%と、上昇率は3か月ぶりの水準まで低下しました。野菜や食用油などを中心に食品価格が下落したことが要因でした。

## 債券利回りと利回り差の変化幅

	2023年10月末	2023年9月末	変化幅
10年国債利回り	7.36%	7.22%	0.14%
10年社債利回り***	7.81%	7.70%	0.10%
利回り差	0.45%	0.49%	-0.04%

出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

\*レボ金利、\*\*消費者物価指数（CPI）上昇率（前年同月比）、同項目のみ月次。新基準（2012年=100）による統計を使用。2023年9月まで。

\*\*\*10年社債利回りはBloomberg FIMMDA India Corporate Bond Curve AAA 10 Year Corporateの利回りを使用。

利回り差等については四捨五入の関係で数値間で整合しない場合があります。

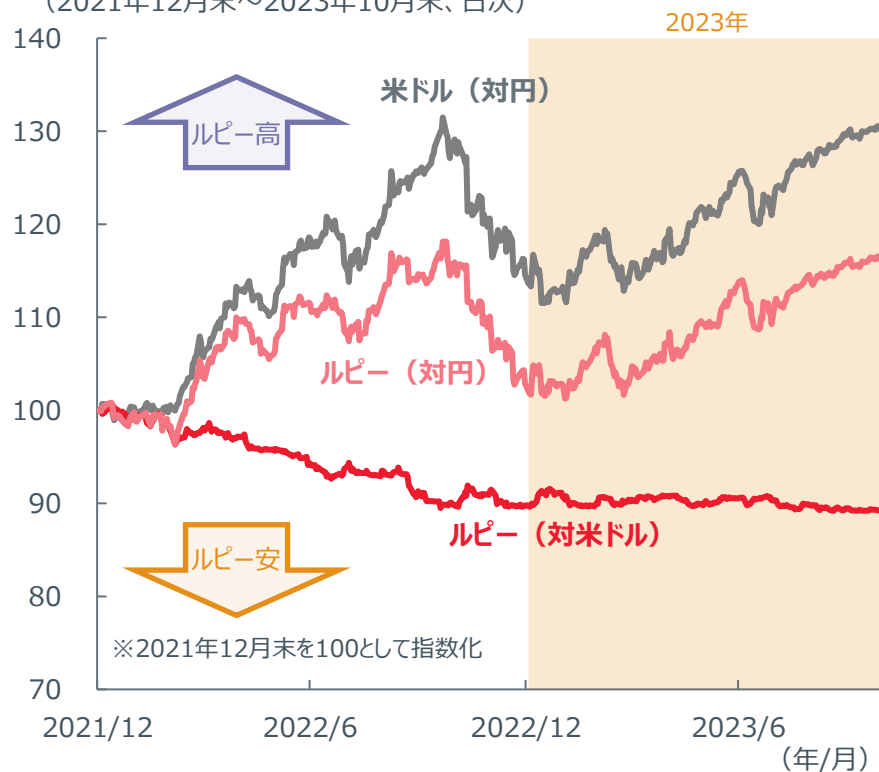
● この資料の最終ページにご留意いただきたい事項を記載しております。必ずご確認ください。

# 為替：ルピーは対米ドルで下落、対円では上昇

- 10月のルピーは、対米ドルで0.3%の下落、対円では0.8%の上昇となりました。
- 2020年以降のルピーの動きをみると、他の新興国通貨と比べて対米ドルで相対的に安定した推移となっています。

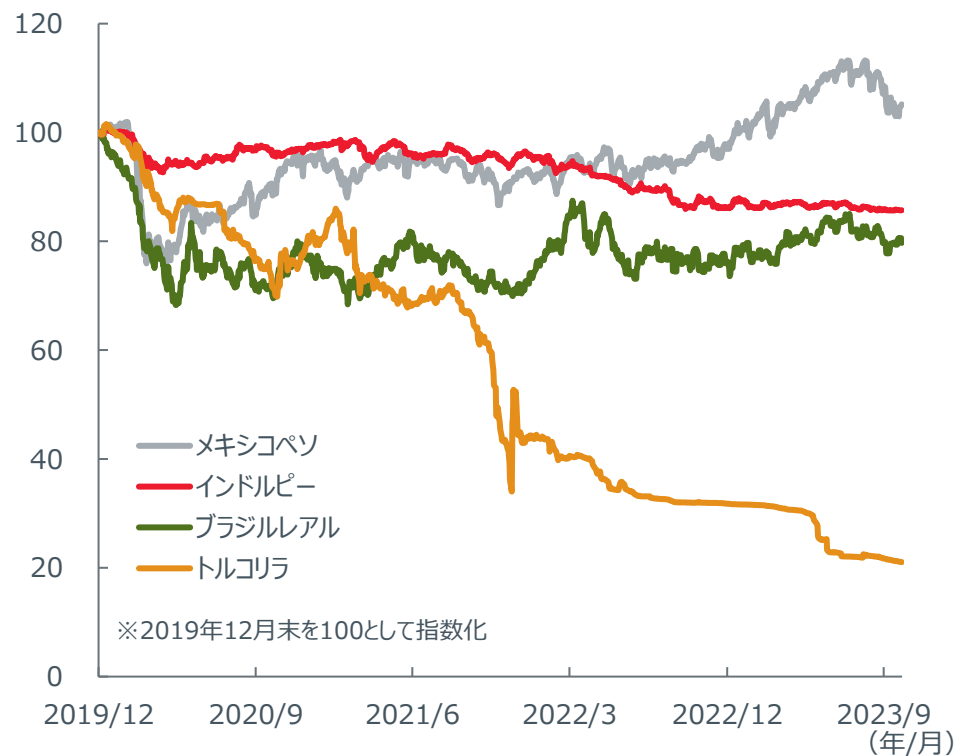
## ルピー（対米ドル、対円）の推移

(2021年12月末～2023年10月末、日次)



## 主要新興国通貨（対米ドル）の推移

(2019年12月末～2023年10月末、日次)



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

# IMF世界経済見通し：2026年には日本を追い抜く予測

- ▶ 国際通貨基金（IMF）は10月に最新の「世界経済見通し」を発表しました。中国やユーロ圏の成長率予測が下方修正される中、インドの2023年の成長率予測は0.2ポイント引き上げられ6.3%となりました。
- ▶ 名目GDP（国内総生産）ランキングでは、インドは2026年には日本を追い抜き世界第4位に、また、2027年にはドイツを抜き世界第3位になると予想されます。

## 主要国・地域の実質GDP成長率見通し

（単位：％、2022年～2024年）

		2022年	2023年	2024年	
		(推計)	(予測)	(予測)	
世界		3.5	3.0	2.9	
	先進国		2.6	1.5	1.4
		米国	2.1	2.1	1.5
		ユーロ圏	3.3	0.7	1.2
		日本	1.0	2.0	1.0
		新興国	4.1	4.0	4.0
	インド	<b>7.2</b>	<b>6.3</b>	<b>6.3</b>	
	中国	3.0	5.0	4.2	
	ロシア	<b>-2.1</b>	2.2	1.1	
	ブラジル	2.9	3.1	1.5	
メキシコ	3.9	3.2	2.1		

## 名目GDPランキング上位10カ国の推移

（米ドルベース、2023年～2028年、予測値）

	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年
1	米国	米国	米国	米国	米国	米国
2	中国	中国	中国	中国	中国	中国
3	ドイツ	ドイツ	ドイツ	ドイツ	<b>インド</b>	<b>インド</b>
4	日本	日本	日本	<b>インド</b>	ドイツ	ドイツ
5	<b>インド</b>	<b>インド</b>	<b>インド</b>	日本	日本	日本
6	英国	英国	英国	英国	英国	英国
7	フランス	フランス	フランス	フランス	フランス	フランス
8	イタリア	イタリア	イタリア	ブラジル	ブラジル	ブラジル
9	ブラジル	ブラジル	カナダ	カナダ	カナダ	カナダ
10	カナダ	カナダ	ブラジル	イタリア	イタリア	イタリア

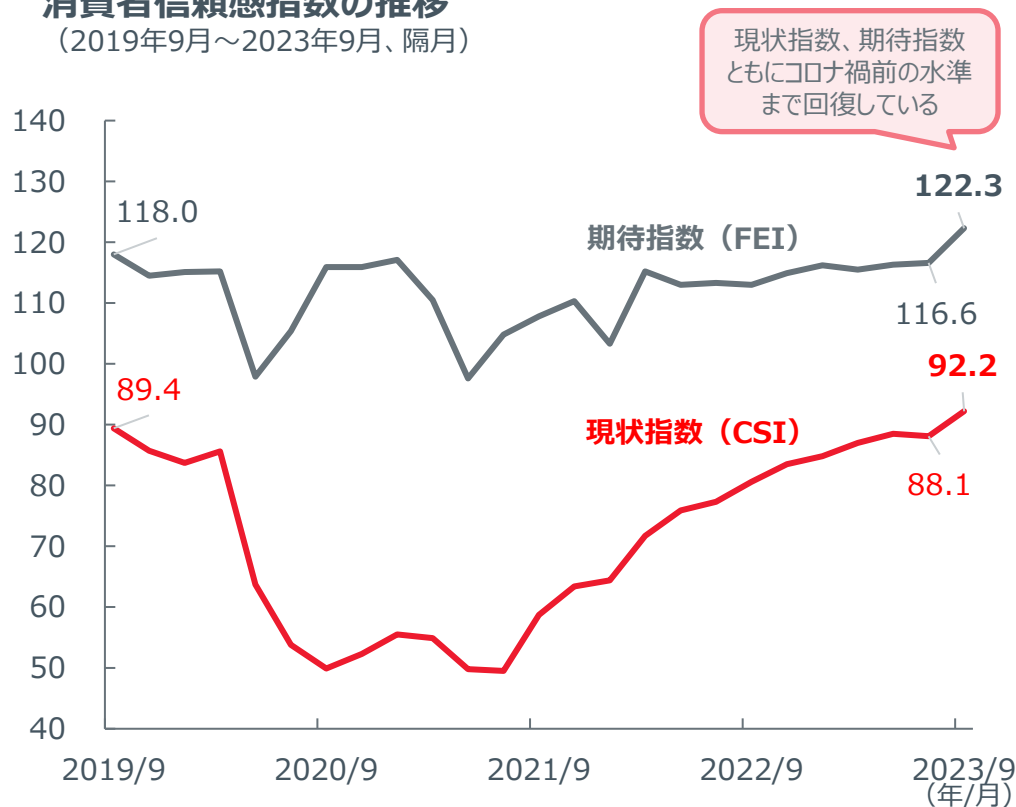
出所：IMF世界経済見通し（2023年10月）のデータに基づきイーストスプリング・インベスメンツ作成。



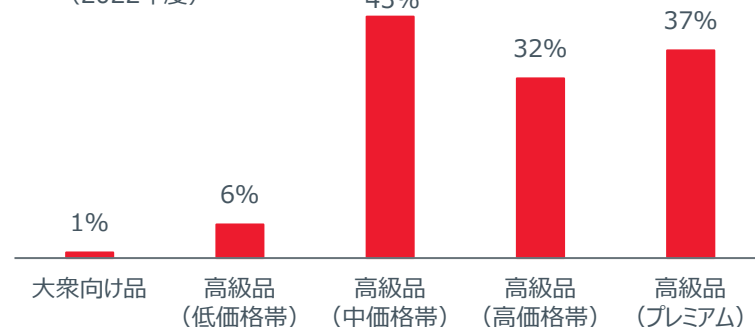
# インドの景況感はコロナ前を上回り、高額消費も復活

- ▶ インド準備銀行（RBI、中央銀行）が2か月に一度公表している消費者信頼感指数\*によると9月の現状指数は92.2、期待指数は122.3とそれぞれコロナ禍前の水準を回復しました。
- ▶ 近年、中間・高所得者層の増加によって、より高品質、高価格なものを求める消費のプレミアム化が進んでおり、消費関連企業の業績改善に貢献しています。

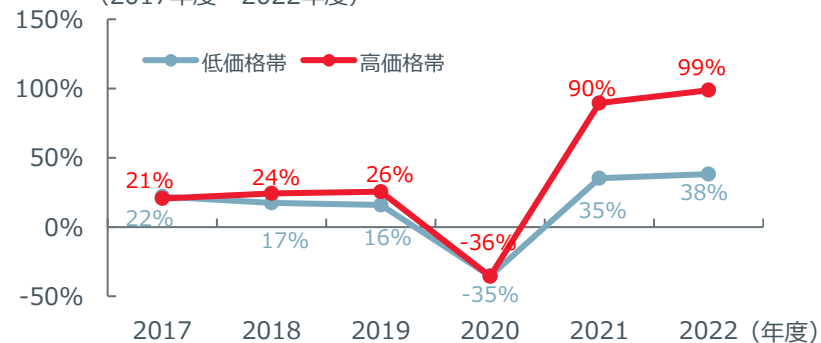
## 消費者信頼感指数の推移 (2019年9月～2023年9月、隔月)



## 酒類：価格帯別売上（対前年度比） (2022年度)



## アパレル業界：価格帯別の純売上高（対前年度比）推移 (2017年度～2022年度)



出所：インド準備銀行（RBI、中央銀行）、ICICIAMのデータに基づきイーストスプリング・インベスメンツ作成。

\*19の主要都市における一般的な経済状況、雇用、物価状況、収入と支出に関する家計の現在の認識（1年前との比較）と1年先の予想を調べ、指数化したもの。

※インドの会計年度は4月から翌年3月まで。例えば2022年度は2022年4月～2023年3月。

● この資料の最終ページにご留意いただきたい事項を記載しております。必ずご確認ください。

# インドの国民的スポーツ『クリケット』



- ◆ インドで最も人気のスポーツであるクリケット。イギリスが発祥で、13世紀に羊飼いの遊びとして始まったと言われています。17世紀以降にはイギリスが全世界に領土を拡大したのに伴い、インド、オーストラリア、南アフリカなどイギリスの植民地を中心に広がっていきました。
- ◆ 1970年代からはワールドカップも開催されており、競技人口は年々増加しています。ICCが2018年に実施した調査では、ファンは世界に10億人以上、競技人口は3億人以上で、競技人口の約半数がインド人だと言われています。

## 「2023 ICC クリケット・ワールドカップ」はインドで開催中！

- ◆ 10月5日にインド・グジャラート州アーメダバード市にあるナレンドラ・モディ・スタジアムで行われたイングランド対ニュージーランド戦を皮切りに、11月19日の決勝戦までインド各地で試合が行われます。
- ◆ 米ウォルト・ディズニー傘下の動画配信サービスである「ディズニー+（プラス）・ホットスター」では、10月14日に行われたインド対パキスタンの試合配信で同時視聴者数が過去最高の3,500万人に達するなど、盛り上がりを見せています。また、今回のワールドカップは開催国インドに最大2,200億ルピー（約4,000億円\*\*）の経済効果をもたらす可能性があるとも言われています。

## 2028年のオリンピックで正式種目に採用が決定！

- ◆ 1900年のパリオリンピックで正式種目だったクリケットは、128年ぶりに2028年のロサンゼルスオリンピックでの実施競技に再び採用されることが決まりました。また、インドは南アジア初となる、2036年のオリンピック招致に名乗りを上げています。クリケットの採用に続き、オリンピック招致が決まれば、インドのスポーツ界の更なる盛り上がりが期待されます。

### Memo

- ✓ インド国内のクリケットのプロリーグ「インディアン・プレミアリーグ（IPL）」は全10チームで選手の平均年俵は530万米ドル（約8億円\*\*）とも。
- ✓ 2023年には、米国においてもプロリーグ「メジャーリーグ・クリケット（MLC）」が発足。

## 男子クリケット 世界ランキング\*

（2023年11月3日時点）



順位	国・地域名
1	インド 
2	イングランド
3	ニュージーランド
4	オーストラリア
5	パキスタン
6	南アフリカ
7	西インド諸島
8	スリランカ
9	バングラデシュ
10	アフガニスタン
50	日本

出所：ICC（国際クリケット評議会）、各種報道に基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

\* ICCによる「Men's T20I Team Ranking」、\*\*2023年10月末時点の為替レートに基づき円換算。

- この資料の最終ページにご留意いただきたい事項を記載しております。必ずご確認ください。

## 当資料に関してご留意いただきたい事項

- 当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。
- 当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料では、個別企業に言及することがありますが、当該企業の株式について組入の保証や売買の推奨をするものではありません。
- 当社による事前の書面による同意無く、当資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。